

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年12月26日

協議会名:塩尻市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
アルピコタクシー株式会社	●北小野線 (勝弦先廻り) 塩尻駅前～塩尻東保育園前～ 塩嶺別荘口～勝弦詰所前～小 野駅～小野駅西～塩尻東保 育園前～塩尻駅前 (古町先廻り) 塩尻駅前～塩尻東保育園前～ 小野駅西～小野駅～勝弦詰 所前～塩嶺別荘口～塩尻東保 育園前～塩尻駅前	前回計画では、目標値は達成できなかったが、利用者は増加し目標値に近づくことができた。 北小野線は令和4年5月に実施したダイヤ改正により、利用者の利便性向上のためフリー降車制度を導入した。フリー降車制度の利用は北小野線が全体の約64%を占めており利用率がとても高い状況にある。 本制度が認知されてきたことも利用者増加の要因の一つとして考えられる。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 1回当たり10人、年間利用者数11,640人の目標値に対し、それぞれ9.7人、11,457人と目標値は達成できなかった。 しかし、利用者の減少を食い止めるという観点から見ると利用者は増加傾向にあるため、該当地域の居住人口が同水準であることを考えると、目標値に近付いたことは一定の成果が出ていると考える。	目標値達成に向けては制度の認知度を高めるため、引き続き利便性の高い制度があることを広報誌や地区回覧等でPRし利用者の増加に努める。 現状で1回あたりの利用者が9.7人であるとともに利用者が増加していることから、一度で大量に輸送できる体制が必要のため、定時定路線型のバスの運行維持は必須である。 また、ダイヤ改正を近々予定しているため、他の交通モードとの連携を含めた最適な運行形態の検討を進めていく。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和6年12月26日

協議会名：	塩尻市地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	本市は木曽地域の北東端に位置する急峻な山岳地帯と松本盆地の南端に扇状地帯をなしており、約290.18km²の面積を有しています。本市は民間路線が次々と廃止される中で、高齢者等の交通弱者の移動を支援する目的で平成11年から塩尻市地域振興バスの運行を開始し、市街地だけでなく農山村地域の暮らしも維持し「まちなかの便利な生活」と「農山村地域のゆとりのある生活」を両立する地域公共交通体系の実現を目指しています。 その中で、北小野地区はJR小野駅があるものの、地区の一部は駅から1km以上離れている集落は交通不便地域となっていること及び市街地周辺と比較して老年人口割合が高くなる傾向が顕著に出ており、今後は生活支援としての交通手段の確保・維持が重大な課題となってきます。 本事業では公共交通空白地解消のため、買い物や通院など日常生活を支えるサービス水準を確保するための交通ネットワークを形成していくことを目的としています。しかし、山間部等を経路としていることや交通不便地域を可能な限り経路としている関係上、経路の長大化及び燃料費や人件費等の運行経費増加は避けられない状況であり、路線確保維持には当該事業が必要不可欠であります。